

グループホーム宝寿の里

(別紙6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0970101879		
法人名	社会福祉法人正恵会		
事業所名	グループホーム宝寿の里		
所在地	栃木県宇都宮市宝木本町1769-1 (電話) 028-666-1111		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】(平成19年8月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7.5 人 7.5 人	常勤7人, (うち兼務2人), 常勤換算7.5人 常勤7人, (うち兼務2人), 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,600 円	その他の経費(月額)	・理美容代一実費 ・おむつ代一実費 ・光熱費一25,000円	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,500 円		

(4) 利用者の概要(平成19年8月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	65 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮第1病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは県道からやや入った田園風景の中にあり、同法人の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターに隣接している。ホームの理念の中に、自然とふれあいながらとあるように、かえるの声や稲の色など、目で耳で自然を感じる事ができる環境にある。法人全体で職員の育成に力を入れており、ホームとしてもホーム長が講師となって認知症の学習会を継続実施したり、全職員が日ごろの入居者への対応などを自己評価し、ユニット長、ホーム長が確認する仕組みを取り入れたりしている。開設から6年目を迎え、ADLの低下などで介助の度合いが増えている方が多いが、ホーム長は終の棲家として、できる限りホームで過ごしていただけるよう対応していきたいと考えている。ユニットごとに食事のメニューが全く異なるなど、必要によっては助け合いながら、それぞれの職員が工夫してそれぞれのユニットの生活を支えている様子がうかがえた。今後、地域との連携を深めていくための具体的な方策を検討している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価については、グループホーム会議で職員に説明し、健康診断の実施、温湿度計の設置などの改善を図っている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、ホーム長がベースを作り、職員会議で職員の意見を聞き、最終的に管理者が確認した。職員個々のケア内容のチェック表を作成しており、定期的に自己評価をし、ユニット長、ホーム長が確認するなどの取組をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、長寿会会長、地域包括支援センター職員、入居者、家族がメンバーとなって2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。入居者、家族は出られる方には出ていただくというようにしている。入居者は多いときには3人参加していたこともある。会議の中で、自治会長の協力を得て、回覧板で地域の方のボランティアを募るということを検討している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	担当を決め、毎月1回行事の写真などが入ったホームだより「ほのぼの通信」を家族に送付している。家族交流会が年1回開催され、人事異動などの説明もしている。すべての入居者が預かり金管理をしており、家族が訪問した際に出納帳を確認してもらっている。重要事項説明書にホーム及び市の相談窓口を明示している。年1回の家族交流会では意見・要望等が寄せられたことはないが、個別的な意見などにはその都度対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、2ヶ月に1回開催される長寿会(老人会)の集まりに参加している。地域の小・中学校から運動会や文化祭の招待を受けたり、中学生の体験を受け入れたりしている。散歩の際に近所の方に挨拶をしたりはしているが、日常的に立ち寄りということまでには至っていない。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念のほかに、「ゆったりと楽しく」「自由にありのままに」「一緒に過ごすケア」「暮らしに喜びと自信を」「地域や自然とふれあいながら」の5項目をホームの理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、額装して玄関や事務室内に掲示するとともに、2ユニット合同で行う毎日の朝礼で読み上げ、理念の共有を図り、日々の実践に反映するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、2ヶ月に1回開催される長寿会（老人会）の集まりに参加している。地域の小・中学校から運動会や文化祭の招待を受けたり、中学生の体験を受け入れたりしている。散歩の際に近所の方に挨拶をしたりはしているが、日常的に立ち寄りたりということまでには至っていない。	○	地域のお店を利用したり、自治会長の協力を得て回覧板でボランティアの募集をすることを検討し、より地域の方々の接点を増やしていこうと考えている。ホームの役割を説明したり、認知症の理解を深めたりする取り組みなども交えながら、より地域の中にとけこんでいくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、グループホーム会議で職員に説明し、健康診断の実施、温湿度計の設置などの改善を図っている。今回の自己評価は、ホーム長がベースを作り、職員会議で職員の意見を聞き、最終的に管理者が確認した。職員個々のケア内容のチェック表を作成しており、定期的に自己評価をし、ユニット長、ホーム長が確認するなどの取り組みをしている。	○	各職員がケア内容の自己評価に取り組んでいることから、ホーム全体の自己評価についても職員それぞれが取り組んで、その差異などを会議で検討して必要なものは改善していく、といった取り組みにも期待したい。

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、長寿会会長、地域包括支援センター職員、入居者、家族がメンバーとなって2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。入居者、家族は出られる方には出ていただくというようにしている。入居者は多いときには3人参加していたこともある。会議の中で、自治会長の協力を得て、回覧板で地域の方のボランティアを募るということを検討している。	○	家族に参加を呼びかけているが出席が難しい現状があるようなので、開催曜日の工夫などしながら、より多くの意見を聞きながら運営推進会議が有効に働いていくような取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長、管理者が役割を分担しながら、市へのサービスに対する質問などを行っている。介護相談員を受け入れていたこともあるが、市との連携は多くはない。	○	ホームの考え方や実態を市に伝えるなどしながら、地域密着型サービスを推進していくための協働関係を築けるような働きかけをしていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者を決め、毎月1回行事の写真などが入ったホームだより「ほのぼの通信」を家族に送付している。家族交流会が年1回開催され、人事異動などの説明もしている。すべての入居者が預かり金管理をしており、家族が訪問した際に出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市の相談窓口を明示している。年1回の家族交流会では意見・要望等が寄せられたことはないが、個別的な意見などにはその都度対応している。	○	家族交流会や運営推進会議などの場面があることを活かして、多くの家族に参加していただいて意見・要望などを積極的に聞き、運営に活かしていけるよう、会議の持ち方の工夫などに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	両ユニット間の異動は多いが、法人内の異動は少ない。職員が様々な経験を積むことでスキルアップにつながるとも考えている。引継ぎは主にホーム長、ユニット長が行っている。	○	個々の入居者への影響や家族への影響などを考慮しながら、異動について検討していくことに期待したい。

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として職員のスキルアップに取り組んでおり、ホームでも入居者への対応などについてチェック表を作成し、全職員が定期的に自己評価し、ユニット長、ホーム長が評価する仕組みをつくっている。また、資格取得を奨励しており、金銭的な支援や勤務調整などの支援をしている。外部研修のほか、法人内の階層別研修やホーム内での認知症の学習会などを実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、研修等に参加している。運営者は、ホームを立ち上げる際に他県のグループホームを数多く見学して参考にしている。	○	職員が他のグループホームと交流できるような機会ができないか検討してみることに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあった場合には、本人に必ず1度はホームに来ていただくようにしている。入居当初は家族と綿密に連絡をとるなどしてホームに馴染めるよう配慮している。ホームに入居されていた方が自宅に戻られる時に馴染んだホームで過ごしていただけるよう、それをきっかけとして共用型通所介護事業を始めた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム長は、まずは認知症の方を理解することが大切と考え、ホーム長が講師となって認知症の学習会を継続的に実施している。風習や慣習など入居者から教えていただくことも多い。	○	ホーム長は重度化してもできるかぎりの対応をしたいと考えている。入居者のADLの低下などで介助の度合いが増えているが、理念を大切にケアの実践を継続していくことを期待したい。

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントは計画作成担当者でもあるホーム長が作成している。ホーム長は夜勤も含めてローテーションに入っていることから情報をキャッチしたり、職員から情報を得たりしながら独自の様式でアセスメントをしている。ニーズ把握は永遠のテーマである、と考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員などと話し合いながらの介護計画作成に努めている。医療的配慮が必要な場合は、その情報も計画に反映している。	○	本人・家族の意見・要望等が少ないように思われた。独自に作っているアセスメント様式を計画作成の際の説明などに用いるなどして家族との連携を深めることに期待したい。また、職員がモニタリングをするようにしようと計画しているので、職員の気づき等をより計画に反映していけるような仕組みづくりに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者個々に計画の目標期間を定め（3ヶ月、5ヶ月等）定期的な見直しをし、計画作成担当者（ホーム長）が家族に説明して同意していただいている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに入居される方が自宅に帰られることをきっかけに共用型通所介護を始めた。急な通所の利用希望にも柔軟に対応している。看護職が入職し、医療連携体制加算の申請に向けて検討をしている。通院の際に症状の経過説明が必要な場合は職員も同行するなどしている。		

グループホーム宝寿の里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があること、ホームドクターの往診が週1回あることの説明はするが、かかりつけ医の継続受診の希望がある場合には意向にそって対応している。かかりつけ医の通院は基本的に家族対応としているが、症状の経過説明などが必要な場合は職員が同行させてもらうこともある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ方針は打ち出していないが、今後、医療連携体制加算の申請も見据えて方針を決定していく予定である。ホーム長は、終の棲家として、重度化してもできるだけホームで過ごしていただきたいと考えている。	○	本人・家族の希望も把握しながら、職員間の話し合いを繰り返し、医療機関等の必要な資源を確保するなど、体制づくりを進めていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	認知症の学習会を通して、認知症の方の理解を深めるように努めている。入居者を基本的に「さん」づけで呼ぶように統一するなど言葉づかいにも気をつけている。個人記録は事務室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、無理強いはしていない。	○	昼食後に、職員がやや手薄になり、入居者の「今」を支えるのが大変そうな場面が見受けられた。入居者個々の思いを支えるための工夫や配慮について職員間で話しあって行くことを期待したい。

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	すべての方が、ということは難しいが、食事の準備や後片付けなど可能な範囲で入居者と一緒に行っていた。職員は遅番が洗い物などを担当し、他の職員は入居者と一緒と同じものを食べ、必要に応じてサポートしていた。2ユニットでそれぞれ異なったメニューが提供されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14:00～17:00と19:00～20:00に入浴の時間帯を設けている。14:00～17:00の入浴を希望される方が多い。ほとんどの方がほぼ毎日入浴している。入浴をしたがらない方には声かけや誘導の仕方を工夫して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皿洗い・拭き、洗濯物たたみ、新聞紙折り、掃除などの役割や歌、ドライブ、ゲーム、体操、習字、生け花などの楽しみごと・気晴らしの支援をしている。パズルや将棋、詩吟、編み物、日記書きなどのそれぞれの趣味を楽しむ方もいる。訪問時には、歌を歌ったり、体操したり、風船バレーをしたりといった姿が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	開設当初は200mぐらい離れたところにある理事長宅に散歩がてら遊びに行くことが多かったが、ADLの低下等で長距離の外出が難しくなっている。中庭での散歩やドライブ、買い物、行事など外出の機会を作っている。	○	散歩などの際に協力していただけるようなボランティアの募集も考えているので、個々の希望にそった外出支援が充実していくことに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けていない。玄関にセンサーチャイムが設置されており、外出の把握をしている。		

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特別養護老人ホームなどと合同で消防署の協力も得ながら定期的な避難訓練を実施している。消防署とのホットラインやスプリンクラーなどの設備もある。1階建てではあるが、避難経路の関係から腰高窓に滑り台を取り付けている。	○	運営推進会議の場を活かしたり、地元の消防団との連携を模索したり、あるいは有事の際に地域に協力するといったことも想定しながら、地域との連携を深めていくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は必要な場合にチェック表を用いて確認するようにしている。月に1度体重測定をしている。食材を見て当番が調理しており、献立表は食べたものの記録としての役割である。食の進まない方にはゼリーをすすめていた。	○	法人の管理栄養士などの専門家に時々献立表を確認してもらおうといったことにも期待したい。また、柔軟な調理をしている現状を活かして、例えば入居者とメニューを相談して買い物に行くといった食の一連の流れの支援などにも期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の設備、調度は家庭で使われるようなものが多く取り入れられており、季節感のある装飾などもしている。食堂のほかに、1方のユニットにはソファスペースが、1方のユニットには畳部屋があり、思い思いの場所で過ごせるようになっている。不快な音や光、臭いなどはなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス、机、エアコンなどはホームで準備しているが、使い慣れたものを持ち込んでいただくように利用案内にも明記している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。